

2023年8月25日

ポーライト株式会社に対する 「むさしのサステナビリティ・リンク・ローン」の取扱いについて ～脱炭素社会実現に貢献する取組みをサポート～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）では、2023年8月25日（金）、ポーライト株式会社（代表取締役社長 菊池 正史、さいたま市北区）に対し、「むさしのサステナビリティ・リンク・ローン」（以下、「SLL」）の取扱いを行いましたので、お知らせします。

SLLは、お客さまがSDGsやESGに関連する事業挑戦目標であるサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下、SPT^{注1}）を設定し、その達成状況に応じ金利など融資条件が変動する仕組みの融資商品です。

本件はSLLとしての適合性およびSPTの野心性につきまして、外部評価機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）からセカンドオピニオンを取得して組成したSLL第1号案件となります。

ポーライト株式会社は、1952年創業の総合粉末冶金^{注2}メーカーで、国内トップシェアとなる小型モータ用軸受をはじめとした機械部品製造における屈指の技術力と、全世界に製品供給可能なグローバルネットワークを有している業界のリーディングカンパニーです。近年では、CO₂排出が殆ど無いクリーンな燃料電池として注目されている「定置型燃料電池」^{注3}の基幹部品の「セパレータ」^{注4}の供給においても、世界トップシェアを誇っております。

このようななか、同社は脱炭素社会の実現に向け、一層の貢献を果たすべく、今般のSLLのSPTに「セパレータ販売数量」を設定しました。「セパレータ」の供給拡大を通じ、「定置型燃料電池」市場の発展に寄与していくことを目指しています。

当行は、今後もサステナビリティ金融への積極的な取組みを通じ、取引先のサステナビリティ経営を後押しし、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

注1 サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲットの略。環境・社会・経済に対するお客さまの事業活動による影響を考慮した「サステナビリティ戦略」と整合した目標をいいます。

注2 粉末冶金は、金属粉末を金型に入れて押し固め、高温で焼結することで精度の高い部品を大量に生産できる工法です。原料が粉末であることから、材料歩留りがよく環境にも優しい工法となります。

注3 定置型燃料電池は、データセンター、ビル、工場電力補完に使われる燃料電池です。また、バックアップ用、送電インフラ未整備な発展途上国での電力供給用など、主に産業・業務用で市場が拡大しています。



250kW SOFCシステム（熊谷第二工場設置）

定置型燃料電池
（同社自社工場で使用しているもの）

注4 セパレータとは、燃料電池内で燃料（水素）と空気（酸素）を隔てる機能をもたせる部品のことで、同社製品は粉末冶金製法による高い緻密性や高温安定強度などが特徴となっています。

次ページへ

《SLLの概要》

企業名	ポーライト株式会社
代表者	代表取締役社長 菊池 正史
所在地	さいたま市北区日進町2-121
業種 および 事業内容	粉末冶金製造業
	1952年創業。粉末冶金製造のグローバルリーディングカンパニーであり高い技術力に加え、年間60億個以上の製品供給能力を有している（生産個数世界一位）。
契約締結日	2023年8月25日（金）
融資金額	3億円
資金用途	運転資金
事業挑戦目標	燃料電池用セパレータ販売数量
第三者評価機関	株式会社格付投資情報センター（R&I）

以上

<参考>むさしのサステナビリティ・リンク・ローンのスキーム図



報道機関からのお問い合わせ先
 ソリューション営業部 法人営業グループ 崎谷 健史・原 祐太
 TEL (048) 641 - 6111 (代)